



新年特集

夢が私を強くする



©(公社)日本フェンシング協会：Augusto Bizzi/FIE



©スウェンソンスポーツマーケティング



あけましておめでとうございます



区民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ワクチン接種などの感染拡大防止策や区民の皆様の暮らし・地域経済活動を支える取組を積極的に進めてまいりました。

区では、激変する社会情勢に対応すべく、昨年に「いたばし No.1 実現プラン2025」を策定いたしました。本年も引き続き、ポストコロナ時代を見据え、だれ一人取り残さない安心・安全なまちをめざす「SDGs(持続可能な開発目標)戦略」、新しい技術・価値により暮らしを豊かにする「デジタルトランスフォーメーション(DX)戦略」、板橋の魅力により定住・交流を促す「ブランド戦略」の3つを柱とする重点戦略を着実に推進し、「東京で一番住みたくなるまち」の実現をめざしてまいります。

さて、板橋区は、昭和7年10月1日に区制施行により誕生し、本年で90周年を迎えます。

子どもたちの明るい未来のため、これまで区民の皆様とともに築き上げてきた「ひと・まち・みどり・文化」を将来へつなぎ、成

長し続けるまちの実現に向け、決意を新たにしているところです。

折しも4月には、(仮称)子ども家庭総合支援センターを開設し、7月からは児童相談所業務を開始します。児童相談所設置自治体として、すべての子どもが健やかに成長できるよう、関係機関と連携し、切れ目のない一貫した支援に取り組んでまいります。

また、近年は地球温暖化の影響で、世界規模で深刻な自然災害が多発しています。区では、地球温暖化への強い危機感のもと、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現をめざし、区民の皆様や地域・事業者の皆様と一体となり、脱炭素社会への取組を積極的に推進してまいります。

社会情勢の変化に的確に対応しながら、安心・安全な区民生活の維持・向上を図り、持続可能な区政経営の実現に向け、本年も全力を尽くしてまいります。

引き続き、区政に対するご理解とご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。



板橋区長

坂本 健

私たちの挑戦の源泉

昨年の東京2020オリンピック・パラリンピックは、開催が1年延期になるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。困難な状況下でも、夢に挑戦することの大切さについて、区にゆかりがある3名にお伺いしました。

問合せ
スポーツ振興課
スポーツプロモーション第一係
☎3579-2667



加納 虹輝



岩瀬 幸洋



加藤 ゆか

次なる世界一に向かって

日本初のフェンシング金メダルを獲得

東京2020オリンピックで優勝が決まった瞬間は、にわかには信じられず、チーム全員で何度も確認しました。日本フェンシング史上初の金メダル獲得で、メディアなどでも取り上げていただき、反響の大きさを実感しました。



©(公社)日本フェンシング協会・Augusto Bizzi/FIE

大会延期は強くなるための準備期間

新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が1年延期されましたが、強くなるための準備期間がもう1年できたと前向きに捉え、日々トレーニングに励みました。練習場が使えないときは、家でできるトレーニングを考えて毎日実践するなど、これまでにない良い経験になりました。

大きな夢に向かって、小さな目標を超えていく

今後の夢は、2024年のパリオリンピックで、個人・団体ともに金メダルを獲得することです。夢に向かい挑戦するうえで、毎月小さな目標を掲げて、達成できるよう努力し続けることを大切にしています。

今後も、区民みなさんに勇気・感動を与えられるよう、良い結果を残していきますので、ご声援よろしくお祈りします。



©(公社)日本フェンシング協会・Augusto Bizzi/FIE

Profile

日本航空(株)所属。区内在住。東京2020オリンピックフェンシング男子エペ団体金メダル。板橋区民栄誉賞受賞。小学6年生のときに、北京オリンピックを見てフェンシングを始める。フットワークを活かしたスピードある攻撃が強み。



©(公社)日本フェンシング協会・Augusto Bizzi/FIE

板橋区の魅力 商店街・お店が多く、暮らしやすいところです。

目標が自分と夢を結びつける

再びこの舞台に戻る日のために

東京2020パラリンピックが無事開催され、夢の舞台でプレーができて感謝しています。パラスポーツの魅力を伝えるためにも「金メダル以上」という目標を掲げていましたが、予選リーグで敗退し、とても悔しい結果となりました。しかし、日本選手団の旗手として国立競技場を行進できたことや、ほかの選手の活躍を間近で見たことで、改めてパラリンピックの素晴らしさを感じ、再びこの舞台に戻ってきたいと強く感じました。



提供：フォート・キシモト

目標があるから前向きになれる

長い間試合が中止になり、試合勘を取り戻すのに不安がありましたが、対応能力を高められるような環境で練習を重ねました。苦しみ悩んだときも、自分の目標を確認して、前向きな言葉・表情を意識して出すようにしました。

戦いは自分ひとりのものではない

これからも、より良い結果を出せるよう挑戦していきます。また、より多くの方がパラスポーツに触れるよう、活動したいと思います。たくさんのご声援をいただき、ありがとうございました。



提供：フォート・キシモト

Profile

協和キリン(株)所属。区内練習場で活動。東京2020パラリンピック卓球男子シングルス出場・日本選手団旗手。中学3年生のときに、パラ卓球と出会う。下肢機能障がいがあり、装具を使用している。



©スヴェンソンスポーツマーケティング

板橋区の魅力 人と人とのつながりが温かく、強いところです。

楽しめるから挑戦できる

オリンピックという特別な舞台

東京2020オリンピックの聖火リレーのランナーを務めました。区内を実際に走れなかったのは残念ですが、現役を退いても、このような形でオリンピックに関われたことは、とても光栄でした。オリンピックは、ほかの試合とは異なる雰囲気にもまれる大会です。各選手の努力を思うと、とても勇気づけられました。



諦めなかったのは、原点を思い出したから

小学6年生のときに、泳ぐことが楽しくて、オリンピック出場の夢ができました。しかし、記録が伸び悩み、水泳をやめようと思ったこともありましたが、それでも私が水泳をやっているのは、楽しいからだと原点に立ち返ることで、挑戦を続けることができました。

挑戦することは、楽しさを見つけること

何かに挑戦することは、その中に楽しさを見つけることだと思います。私は現在、子育てに挑戦中ですが、マスターズでの記録にも再び挑戦したいと思っています。常に楽しみながら、真剣に取り組んでいきたいです。



Profile

区内在住。2012年ロンドンオリンピック競泳女子400mメドレーリレー銅メダル。板橋区スポーツ大使。引退後も、マスターズで世界記録を樹立。

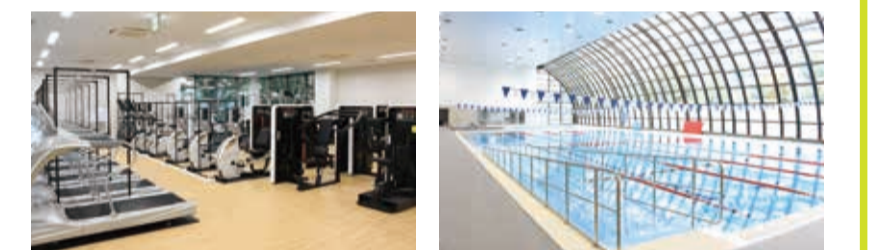


板橋区の魅力 結婚・出産など、様々なライフステージに合うところです。

植村記念 加賀スポーツセンター



昨年9月にリニューアルオープンしました。最新機器を備えたトレーニングルームや、車いすのまま入れる温水プールなどを利用できます。



Information

- ▶住所 加賀1-10-5
- ▶休館日 第3月曜(祝日・休日の場合は翌平日)・年末年始
※利用時間・料金など詳しくは、区ホームページをご覧ください。
- ▶電話 3579-2626
(平日9時~23時、土曜・日曜・祝日・休日は21時まで)

板橋区のスポーツ振興

区民のスポーツに対する関心を深め、スポーツ振興を図るため、板橋Cityマラソン・いたばしウォーキング大会・各種スポーツ教室などの実施、プロスポーツチームとの連携協定の締結などを行っています。

また、区に深い愛着を持ち、積極的な広報活動とスポーツ振興への支援に協力いただける個人・団体に、板橋区スポーツ大使を委嘱しています。



板橋Cityマラソン



板橋区スポーツ大使による水泳教室



東京ヴェルディサッカー教室

植村の冒険の軌跡

昭和41年(25歳)	●モン・ブランに登頂 ●キリマンジャロに登頂
昭和43年(27歳)	●アコンカグアに登頂 ●アマゾン川16000kmを手作りのイカダで下る
昭和44年(28歳)	●板橋区で暮らし始める
昭和45年(29歳)	●日本人初・エベレストに登頂 ●マッキンリー(現:デナリ)に登頂し、 世界初・五大陸最高峰登頂者となる
昭和46年(30歳)	●日本列島3000kmを徒歩で縦断
昭和47年(31歳)	●グリーンランドに約1年間住む
昭和51年(35歳)	●北極圏1万2000kmを犬ぞりで走破
昭和53年(37歳)	●世界初・北極点に犬ぞりで到達 ●世界初・グリーンランド3000kmを縦断
昭和59年(43歳)	●世界初・冬期のマッキンリーに登頂 ●登頂成功を伝える無線交信を最後に消息を絶つ ●国民栄誉賞を受賞 ●グリーンランド南端の山に「植村峰」という名前がつけられる

※緑字は単独行



写真提供 文藝春秋



写真提供 文藝春秋

植村冒険館リニューアルオープン記念特集

挑戦者 植村直己の肖像

冒険家・植村直己(以下「植村」)は、板橋区を出発地として各国に旅立ち、世界初の五大陸最高峰登頂を成功するなど、数々の業績を残しました。植村の軌跡や区とのゆかり、リニューアルオープンした植村冒険館の見どころなどを紹介します。

冒険の出発地・板橋区

植村の冒険の特徴は、単独行(一人で冒険・登山すること)です。だれも成し遂げることができない数々の記録の達成には、精神力だけではなく、人並み外れた体力が必要

現地の暮らしを取り込む

植村は、次の冒険への準備期間に、自宅近くの東板橋公園を走り、体力作りに励みました。

植村の冒険は、まず現地の暮らしを知ることから始まりました。現地に住み込み、地元の人々と様々な交流を重ねました。グリーンランド最北の村・シオラパルクで暮らしたときは、地元の人々から犬ぞりの扱い方を学びました。気候・風土を体で感じ、冒険に必要なあらゆる情報を吸収していききました。

常に礼節を忘れない

昭和45年のエベレスト登山の際、植村は同じ登山隊の先輩・松浦と一緒に頂上をめざしました。植村は、松浦の前を進んでいきましたが、山頂を目前に立ち止まり、動きません。松浦が先に行くよう促すと、植村は「先輩、お先にどうぞ」と言いつつ、松浦が先に山頂に立つよう譲りました。

植村が暮らした板橋区

昭和44年、植村は仲宿商店街の近くのアパートで暮らし始めました。三畳一間の部屋に、家具はトランクと寝袋だけ。結婚後も、同商店街の近くで暮らしました。板橋区から、エベレスト登頂・北極圏1万2000km走破・北極点単独到達などの歴史に残る冒険に出発しました。



結婚後に暮らしたアパート(現在はありません)



植村冒険館

チャレンジスピリットに触れてみよう

昨年12月に、植村記念加賀スポーツセンター内にリニューアルオープンしました。植村の代表的な冒険を紹介する映像上映や、複製した犬ぞり・冒険を共にした装備品などを展示しています。



Information

- ▶住所 加賀1-10-5
(植村記念加賀スポーツセンター3階)
- ▶開館時間 10時~18時
(入館は17時30分まで)
- ▶休館日 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)・年末年始
- ▶入館料 無料
- ▶電話 6912-4703

問合せ

植村冒険館 ☎6912-4703(月曜(祝日・休日の場合は翌平日)・年末年始休館)

感染防止にご協力をお願いします

発熱・呼吸器症状などがある場合

板橋区新型コロナ健康相談窓口
☎4216-3852(平日9時~17時、
1月1日(祝)~3日(月)を除く)

東京都発熱相談センター
☎5320-4592
(24時間)

新型コロナウイルスワクチン相談窓口

板橋区新型コロナワクチンコールセンター
☎0120-985-252
(9時~18時、1月1日(祝)~3日(月)を除く)